

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900677		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋坪井東		
所在地	千葉県船橋市坪井東5-23-6		
自己評価作成日	平成29年1月21日	評価結果市町村受理日	平成29年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂く為に、季節ごとのイベントを多く催しております。また、ご家族様にも参加して頂き、ご家族と施設側とで連携し認知症介護に取り組んでおります。どうしても施設に入所してしまうと運動不足や外出の機会が減ってしまいがちですが、当ホームでは、体操の他に毎日2回の散歩(合わせて1時間半ほど)や外出レクを多く企画しております。また、お一人おひとりの趣味も大事にし、出来る限りサポートして趣味をいつまでも楽しんでもらえるように工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分の意思で決定し行動する自己決定の支援・残存能力を活かした支援」に努めるとの運営理念を掲げている。囲碁・日舞・裁縫や絵画などこれまでの趣味を継続できるよう一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。お茶の時間に自分の好きな飲物を自由に選択できる工夫や日用品の買物で自分の好みのものを選んだり入浴後の衣服も自分で選べるような支援を心がけている。近くにある公園や遊歩道など立地を活かして毎日のように散歩に出かけ、また、外出レクを多く企画実施している。職員が入居者一人ひとりの出来ることを考え、残存能力を活かす支援に繋げるなど運営理念の実践に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年2月2日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や夕礼時には必ず唱和を行って意識して介護に取り組んでいる。	法人の運営理念に基づき、「自分の意志で決定し行動する自己決定の支援・残存能力を活かした支援」とのホーム独自の運営理念を話し合って作った。入居者一人ひとりに自己決定して頂く支援に努め、趣味を継続して頂く、してあげるではなく、出来ないことを介助することに努め残存機能を活かす支援に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回はボランティアの方にホームに来て頂き交流を行っている。	家族の紹介によるオカリナ・フラダンスや手品のボランティアに来て頂いている。自治会には未加入だが、公民館便りを見て、クッキー焼・ゲーム・演奏会や小学生の太鼓等の行事に参加するようにしている。毎日のように行く公園や遊歩道の散歩時に子ども連れの家族や犬の散歩の方々と挨拶を交わせるようになってきている。	認知症サポーター養成講座や職場体験を小中学校と交渉中である。保育園との交流なども今後行っていきたいとのことであり、是非実現されることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症予防講座を開設より4回ほど行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催が出来ていない状況。	在宅支援センター職員、民生委員、看護師、薬剤師や家族の参加を得て、3～4ヶ月に一度開催している。	年間開催予定を立て、事前に参加者にお知らせし、ホームで行うサポーター養成講座や行事などに合わせたり、議題を工夫する等、2ヶ月に一度定期的開催することを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導への参加やオレンジキャラバンへの協力を行っています。	指導監査課担当者の方と運営等に関する相談を気軽に行える間柄である。在宅支援センターの方とは運営推進会議等を通してホームの実情や取り組みなどをお知らせしている。また、地域連携会議にも参加し、認知症サポーター養成講座やオレンジキャラバンなど協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修等を行っている。	研修を実施している。法人が実施する「虐待・不適切ケアと身体拘束」チェックシートで各ユニットの現状を2ヶ月に一度職員輪番制で本部に報告することによって職員一人ひとりの意識を高めるようにしている。チェックのついた項目に対して話し合い、言葉による抑制も含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等を行っている。定期的なチェックシートなどを活用している。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書は全文読み、納得したうえでサイン捺印してもらっています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、アンケート調査を外部に委託しております。	家族会を年3回実施するとともに、夏祭り・敬老会・クリスマス会等家族参加の行事を多く実施し、家族からの意見や要望を言っていたき易くしている。毎年法人が家族アンケートを実施し、また、外部評価のアンケートなどでの意見や要望を検討し普段の様子をもっと詳しく知りたいや入浴状況が知りたい等の要望を反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や社内には相談窓口も設置しております。	ユニット会議で出た職員の提案による行事を実施するようにしている。ホーム長面談を毎月実施して意見や要望を聞く機会ももっている。買物の回数、備品と消耗品の補充やフロア毎の業務内容の変更など職員の意見を運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等で、意見や悩みなどを聞くように心掛け、解決し働きやすい環境づくりに取り組んでおります。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にみならず、外部の研修への参加も心掛けております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市内のグループホーム連絡会に所属し交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居当初は不安が多い為、接する時間を多めにとるように心がけています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族会を開催して、ご家族同士の交流をはかり悩み等を話せる環境を作っております。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族様の要望やご本人と話す時間を多く取りサービス内容を話し合っております。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に生活をしているという環境作りを行っております。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様と話合う時間を多く作り、連携を取っております。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>出来る限り趣味や交友関係を大切に、外出を心掛けるようにしております。</p>	<p>趣味の囲碁仲間との交流、長年の日舞のお稽古に通う等の支援を行っている。友人や家族親戚の方の訪問や電話の取り次ぎや手紙のやりとりの支援。家族と毎週家で泊まったり、外出、外食や馴染みの美容院に行く支援や長年のファンだったタレントのディナーショーに行く支援なども行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様の間に入り、利用者様同士が上手く関わりあえるよう心掛けております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様と連絡を取り、現在の状態の把握に努めております。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人の希望を聞いたり、本人の希望に答えられるように努めております。	職員は入居者と同じ目線で会話し、傾聴にもこだわり、思いや意向の把握に努めている。裁縫や絵画など、これまでの趣味を大切にされた支援が図られている。外出やレクリエーションなど、入居者が孤立しないように心がけている。感情の起伏が激しい入居者には声かけなどで落ち着かせ、原因や様子を具体的に個人記録に記載するように努めている。	入居者の思いや意向、生活の様子、動き、その原因などの個人記録への記載内容について職員間で質のばらつきがみられる。ケアプラン作成のもとになる個人記録の書き方についての研修の実施に期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で生活歴の話をしたり、ご家族様から聞いたりしてケアに生かしております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はご自分でしてもらうように努めており、ご本人にあった時間の過ごし方を尊重しております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフやご家族だけではなく、医師や看護師、薬剤師や民生委員の方などからも意見を頂き作成しております。	居室担当者が3ヶ月毎にモニタリングを実施している。「個人記録」「ケア日報」の情報や面会時の家族からの意見、訪問医師・看護師の意見も取り入れ、計画作成担当者がケアプラン原案を作成している。毎月のユニット会議ではケアプラン原案に対して全職員が積極的に意見を出し合い、入居者一人ひとりのサービス内容・方法を検討していることが会議録からも確認できる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録はもちろんの事、会話の中で聞いた情報等も細かく記録するように心掛けております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい試みを模索し、挑戦しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に利用させてもらい、地域の施設も利用させて頂いております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、緊急時でも受け入れ可能な病院を確保しております。	月2回の主治医による訪問診療と共に、他科受診が必要な場合は同医療機関の医師による随時の訪問診療も行われている。訪問看護師と医師との密な連携も図られている。医師への相談事項を事前に「住診記録」に記載し適切な受診につなげている。医師からの指示事項や薬の変更なども記載し職員間の情報共有を図っている。症状の変化や薬の変更などは必要に応じて家族へ連絡している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間担当看護師と連絡が取れる体制になっており、常に情報の共有に努めております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時や入院が必要な場合でも対応できる病院と医療連携体制を取っております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフには、定期的に研修を行っており、ご家族には契約時に書面と口頭で説明しております。	入所時に「重度化した場合の対応にかかる指針」により、重度化した際のケアプランの変更や急性増悪時の医療機関との連携体制について入居者・家族に説明し同意を得ている。また、看取り介護を行う場合の条件やホームの看取り体制の現状など、入居者、家族からの質問については「看取り介護にかかる指針」を使ってわかり易く説明している。職員のメンタルケアを含めた看取りに関する教育や研修が予定されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修の他に、消防署に依頼して救命救急講習を行っております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、災害時の避難や備蓄品の使い方の研修を行っております。	「消防計画」に基づき消防機関との連絡方法や自衛消防組織、ホームに近い職員を優先した緊急連絡網などが整備されている。全入居者、職員による消火・通報・避難の消防訓練を年2回実施している。自立歩行の入居者は階段から、車いすの入居者はタオルケットを利用し非常口の踊り場やベランダからの避難誘導など実践的な避難訓練が行われている。防災の日は携帯用ガスコンロを利用して備蓄品を使った調理を行うなどの実地研修を行っている。	1階、2階の夜勤者2名の役割分担を明確にしたフローチャートの作成とそれに基づく夜間火災想定避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない声掛け、対応に心掛けております。	裁縫や絵画などこれまでの趣味を継続できるように、一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。お茶の時間には、自分の好きな飲み物を自由に選択できるような工夫が図られている。また、日用品の買い物では自分の好みのもを選び、入浴後の衣服も自分で選べるように一人ひとりの自己決定の支援を心がけている。抑制的な言葉使いなどは「不適切なケアチェックシート」による自己確認やユニット会議、現場で管理者がその都度、指導に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム独自の理念として、自己決定の支援を掲げており実践しております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を最優先に出来る限り、お一人おひとりの希望に添った支援に努めております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などはご自分で選んでもらいます。女性の方には、希望があれば化粧などの補助もしております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者様に手伝って頂き調理しております。	食材の買い物や盛付、下膳、食器洗いなどを入居者が手伝い、ホームの理念である「残存能力を生かした支援」の実践が行われている。ご飯の量の調整や嚥下状態を考慮した刻み食、ミキサー食などの食形態にも配慮している、入居者がおにぎり弁当を作ったの花見外出や夏祭りのたこ焼き作りなど楽しい食事につながる支援が図られている。施設内での寿司職人による寿司祭りやバーベキューなどの食事レクリエーションも盛んである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は細かく記録し、栄養バランスに気を付けたり、いつもと変わった事はないか気を付けております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い義歯なども洗浄し口腔内の清潔を保つように心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ等は出来る限り使用せずに、トイレでの排泄を支援しております。	入居者のトイレでの排泄にこだわり支援が行われている。寝たきりの入居者も職員2名の介助によりトイレに座っての排泄支援が行われている。一人ひとりの排泄タイミングを排泄表で把握し、職員が声かけを行いトイレへ誘導している。その結果、日中オムツ使用の入居者が少なくなっている。車いす対応の3ヵ所のトイレには左右の可動式手すりや背もたれが設置され、入居者が安心して立ち座りできるように配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使用せずに、自然排便を行えるように日中の過ごし方や食事などを工夫しております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご自分のペースで入れるように心掛けております。	2方向介助が可能な浴槽で原則、午前中に週2～3回入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる入居者には、足浴やシャワー浴などで浴室まで誘導し浴槽での入浴につなげている。また入浴時間の変更や声かけの職員を交代するなどの工夫も取り入れている。浴槽の温度は入居者の好みに応じて個別に調整している。脱衣所と浴室を温め温度差をなくしてヒートショック防止を図っている。入浴剤や季節のゆず湯などで楽しい入浴支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などがないように日中の過ごし方を工夫したり、今までと変わらない環境状態で休めるようにしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をまとめたファイルを作成し、常に確認し内容の変更があった際も共有しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりにあった役割を、持ってもらうように心掛けております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他に、季節に合った外出も行っております。また、個別での外出も行っております。	2～3名の入居者がグループで近くの公園や遊歩道まで、20～30分の散歩を毎日、午前午後の2回行っている。勤務体制の工夫や散歩優先のスケジュール作成などにより意識的に散歩回数を増やす工夫が図られている。初詣やイチゴ狩り、お花見など季節ごとの外出行事や公共交通機関を利用しての買い物外出も行われている。釣りが好きな入居者と一緒に釣堀へ行ったり、絵を描く趣味の入居者と画材の買い物に出かけるなど個別の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けたり、ご補任の希望の買い物もご家族と相談し、ご自分で買い物してもらっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用の申し出があればその都度対応しております。手紙や年賀状も出せるように支援しております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の明るさ、空調、室温や湿度の管理の他にもスタッフものんびりとした雰囲気を作り出し、過ごしやすい環境作りに努めております。	入居者が作成した季節のちぎり絵や書道の作品、行事の写真が明るいリビングに掲示されている。仲良し同士で会話を楽しみ、職員と一緒にカルタ取りをするなど思い思いに過ごせるように配慮している。また、食事の後はゆったりしたソファで休憩をとっている。加湿器・エアコンの調節をこまめに行い、温度・湿度の管理を徹底している。入居者が毎朝リビングの掃除を行い、土曜日にはレクレーションを兼ねて全員で椅子や洗面台の掃除を行うなど残存能力を活かした取り組みがみられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでの席は決めておらず、その時その時に自由に座ることが出来るようにしており、その他ゆっくりとくつろげるスペースも確保しております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具などを持って来てもらい見慣れたものに囲まれた生活出来るように心掛けております。	居室には時計や整理ダンス、位牌など馴染みの物が持ち込まれ、家族の写真や行事の写真が飾られている。入居者の希望に沿ってベッドの位置の移動やADLを考慮しベッドの高さを調整するなど個々の入居者に合わせて支援している。居室のドアには大きな名札が掲示され入室時に混乱しないように配慮している。転倒リスクのある入居者には職員がこまめに巡視して安全を図り、エアコンや加湿器をこまめに調節し、風邪防止など健康管理に努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室などをわかりやすく表示したり、歩かれる動線には物を置かないようにしています。		